

【“内容が明確に伝わらない技術文書”を書くことで起こる重大なこと】

1. “内容が明確に伝わらない技術文書”を書くことで起こる重大なこと

「内容が明確に伝わらない技術文書＝わかりにくい技術文書」とします。内容が明確に伝わらない技術文書を書くことで起こる重大なこととは“無駄な時間を使うこと(時間の無駄遣い)”です。この理由を以下の3つの視点で解説します。

- ①技術文書を書く目的が達成できないこと
- ②読み手の仕事の時間を奪うこと
- ③仕事の手戻りがあること

2. 技術文書を書く目的が達成できないこと

技術文書を書く目的は技術文書の書き手から読み手への内容の伝達です^{注)}。内容が明確に伝わらない技術文書(＝内容が伝わる技術文書)を書けば技術文書を書く目的が達成できません。つまり、「内容が明確に伝わらない技術文書を書くこと(技術文書を書く目的が未達成の技術文書を書くこと)は、時間を無駄に使っていること(時間の無駄遣い)」です。

注):「マンガで学ぼう・ダウンロードコーナー」の中の「技術文書を書く目的を認識しよう」の資料を参照のこと

3. 読み手の仕事の時間を奪うこと

例えば、内容が明確に伝わらない業務報告書を仕事の依頼人(読み手)に渡したとします。これを読んだ読み手は、この業務報告書を理解するため何度もこれを読んだり、「この内容をどのように理解したらよいのだろうか」と考えたりします。あるいは、業務報告書の内容の確認のため、これを書いた人(書き手)に電話をしたりメールを送ったりするかもしれません。

このような行為はすべて読み手の仕事の時間を奪っています。つまり、読み手に無駄な時間を使わせています。これは、読み手に迷惑をかけていることです。

内容が明確に伝わる業務報告書を書けば、読み手には、このような時間の無駄遣いは発生しません。

4. 仕事の手戻りがあること

例えば、構造物の設計に関する設計条件の確認のため設計条件をまとめたものを仕事の依頼人(読み手)にメールで送ったとします。これが、内容が明確に伝わらない内容だったら読み手は以下に示したようなことをすると思います。

- ①書き手に設計条件の内容を確認する。
- ②「たぶん、このような内容だろう」と理解して「この設計条件で設計を進めてください」

という内容のメールを送る。

②で、書き手が考えた設計条件と読み手が理解した設計条件が異なっていた場合、書き手は間違った設計条件で設計を進めます。その結果、結果報告をしたとき「この設計条件は間違っています。やり直してください」と指摘されます。つまり、間違った設計条件で仕事をしてきた時間が無駄になります。これは、仕事の手戻りなので時間の無駄遣いです。

5. 書き手にも読み手にも発生する時間の無駄遣い

このように、内容が明確に伝わらない技術文書を書くことでこの書き手にもこの読み手にも時間の無駄遣いが発生します。内容が明確に伝わる技術文書を書けばこのような時間の無駄遣いは発生しません。

仕事の時間を無駄なく使うために「内容が明確に伝わらない技術文書を書くことで、書き手に、時間の無駄遣いが発生する」、「内容が明確に伝わらない技術文書を書けば、読み手に、無駄な時間を使わせる（読み手に迷惑がかかる）」ということを認識して技術文書を書く必要があります。

このように考えると、内容が明確に伝わる技術文書を書くことの重要性が理解できると思います。

以 上